

坂元小だより

鹿児島市立坂元小学校
学校だより
令和6年11月号
発行責任者：中村宗義



～やってみよう 頑張ってみよう みんなが笑顔の坂元小～

人とのかかわりの中で

校長 中村 宗義

先月、6年生が福岡・熊本方面に修学旅行に行ってきました。福岡では、約70種類の職業体験ができるキッザニアという施設で活動しました。子供たちの人気は、TV局のディレクターや音響担当、パイロットやCA、ピザ屋や寿司屋の職人も人気でした。その他には、車の整備工や銀行職員、医師や看護師の体験もありました。どれも、あこがれの制服を着て仕事を体験できるので、子供たちは真剣にスタッフさんの話を聞いて意欲的に活動していました。

仕事を終わると、キッザニアの紙幣で賃金が支払われます。それらを貯めて消しゴムやおもちゃなどの品物と交換するというシステムです。働いただけの賃金を貰えるというところから子供たちは積極的に仕事に取り組んでいました。活動後、「お金を稼ぐ大変さを知った」「お父さん、お母さんの有難さを感じた」「人との接し方の大切さがわかった」など、多くの感想がありました。

多くの職業で共通していたことは「人とのかかわり」です。「こんにちは いらっしゃませ」と笑顔と爽やかなあいさつで出迎え、相手の立場に立って接客、そして、「ありがとうございました」と気持ちよく見送る。これらを身に付けるためには、同学年の子供たちの交流だけではなく、家庭での躾や多くの人とふれ合ったり交流したりする活動が、より大切だと感じました。

後日、2日目の自主研修先の近代美術館でボトルフラワーを担当していた方から「これまで多くの修学旅行生と接してきましたが、坂元小学校児童の話を聴く態度、見る態度、会話の仕方や感想文の内容まで心が温まり、すばらしくて感激しました。どうしてもお伝えしたくて、連絡先を調べて、お電話しました。」とありました。突然の電話に「忘れ物？何かやらかしたのでは？」と冷や冷やしましたが、お褒めの言葉を頂いてとてもよい気持ちになりました。

稲盛和夫氏は「人のためになることをしていると、周りのみんなが協力してくれるようになる。いい仕事をしていくためには、自分のことだけのことを考えるのではなく、周りの人のことを考え、優しさと思いやりのある心で対応することが大切です」とおっしゃっています。人とのかかわりの中で、子どもも我々大人も成長していくのだと思います。



*裏面もあります。